
4. ワークショップの開催（課題解決型グループワーク）

本業務では、男鹿中地区の住民を対象に、地域課題の共有及び解決策の検討について意見交換を行うため、ワークショップを開催した。

4.1. 開催概要

4.1.1. 開催目的

地域住民や地域の生活・交通を支える関係者等を対象に、男鹿中地区での交通課題の把握および具体的な解決策の検討を目的としたワークショップを開催した。ワークショップは公共ライドシェア等の新たな地域交通の導入も視野に入れた構成とし、ワークショップを通じて、地域交通を担う人材の育成や導入に対する地域の機運醸成、将来の担い手の確保を目指すこととした。また、セミナーと連動した開催とし、セミナーで共有した地域交通政策に関する情報を活用した具体的なアイデアの発掘を行った。

4.1.2. 対象者

男鹿中地区住民を基本として、男鹿中地区で導入が想定される公共ライドシェア等の利用者・運行主体になり得る方を対象とした。

4.1.3. 開催方法

(1) 日時

令和8年1月21日（水）10:00～11:30

(2) 場所

男鹿中コミュニティセンター

4.1.4. 募集方法

ワークショップ前に開催されるセミナーでの呼びかけのほか、募集チラシを作成し、町内会長を通じて地域住民へ参加の呼び掛けを行った。また、コミュニティセンターを窓口とした事前申込制とした。

4.1.5. 主な内容

ワークショップ当日のスケジュールは以下の通りとする。

表 4-1 ワークショップタイムスケジュール

<u>10:00</u>	開会
<u>10:05</u>	事務局説明（セミナー・アンケートの振り返り）
<u>10:15</u>	意見交換 1 ライドシェアを『使ってみる』を考えよう
<u>10:35</u>	休憩
<u>10:45</u>	事務局説明（全国の取組事例の紹介）
<u>10:55</u>	意見交換 2 ライドシェアの『ドライバーになる』を考えよう
<u>11:05</u>	意見交換 3 ライドシェアの『体制づくり』を考えよう
<u>11:15</u>	まとめ
<u>11:30</u>	閉会

4.2. 開催にあたっての準備事項

4.2.1. 参加者の募集

開催に当たって、参加者を募集するためのチラシを作成した。作成したチラシを図 4-1 に示す。また、町内会長からも参加の呼びかけを行っていただいた。

男鹿中地区の交通をみんなで考える!

「公共ライドシェア」 ワークショップ

令和7年10月～11月に実施したアンケート調査や「公共ライドシェア」セミナーをふまえて、実際に男鹿中地区で公共ライドシェアの導入を検討するために、**住民の皆さんのご意見を直接おうかがいするワークショップ**を開催します。複数人でグループに分かれて意見交換をしながら、男鹿中地区の将来の交通について一緒に考えてみませんか?

1月21日 水
10:00~11:30 開催

会場 男鹿中コミュニティセンター
TEL(申込み) **0185-33-2039**

対象者 男鹿中地区にお住まいの方ならどなたでも参加できます。
申込み方法 令和8年1月15日(木)までに上記、男鹿中コミュニティセンターに電話でお申込みください。

ワークショップの主な内容

- 1 男鹿中地区の交通に関する課題を知ろう!
- 2 男鹿中地区の新たな交通手段とは?
- 3 みんなでアイデアを出そう!

公共ライドシェアって何?

- 一般ドライバーが、自家用車を使って有償で乗客を送迎します。
- 事前の予約によって運行します。
- 運行区域や運行時間帯、目的地が限定されることが多いですが、家の前まで迎えに来てくれます。
- タクシーと違って、複数人の乗合となる場合もあります。

公共ライドシェア運行イメージ
予約(デマンド)型
利用者の予約に応じて路線や時刻を設定

▼ワークショップに関するお問い合わせ先 本事業は男鹿市が実施し、日本工営株式会社に委託しています。

■事業全般に関する内容について →男鹿市 総務企画部 企画政策課
TEL/0185-24-9122 担当: 齊藤、狩元

■ワークショップの詳細について →日本工営株式会社 (受託事業者)
TEL/022-745-1260 担当: 野中、中江

図 4-1 配布したチラシ

4.2.2. 意見交換の進め方

参加者は意見を付箋に書き込み模造紙を貼り付ける。

ファシリテーターは特定の参加者に発言が偏らないよう進行に努める。

※1枚の付箋につき意見は1つとする。

(1) 意見交換1：ライドシェアを『使ってみる』を考えよう（20分）

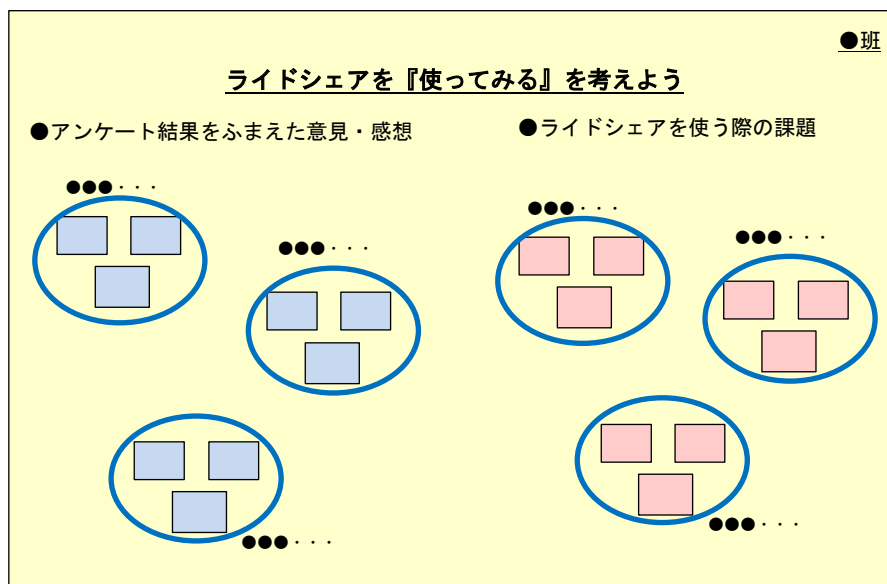
各班の自己紹介のあとに、以下のような内容でファシリテーターから投げかけ、参加者の意見をうかがった。

① アンケート結果をふまえた意見・感想

- ・ 運行してほしいルート・目的地
- ・ 運行してほしい時間帯
- ・ 運行してほしい曜日・運行頻度など

② ライドシェアを使う際の課題

- ・ 予約方法は電話か、Webか、スマートフォンのアプリか？
- ・ 相乗への不安はないか？
- ・ 地域のドライバー、ドライバーの自家用車に抵抗はないか？
- ・ 待合環境は必要？どこが良い？
- ・ 車両のサイズはどれくらい？



(2) 意見交換2：ライドシェアの『ドライバーになる』を考えよう！（10分）

全国の事例等をふまえて、男鹿中地区においてもドライバーの担い手を探すために意見をうかがった。

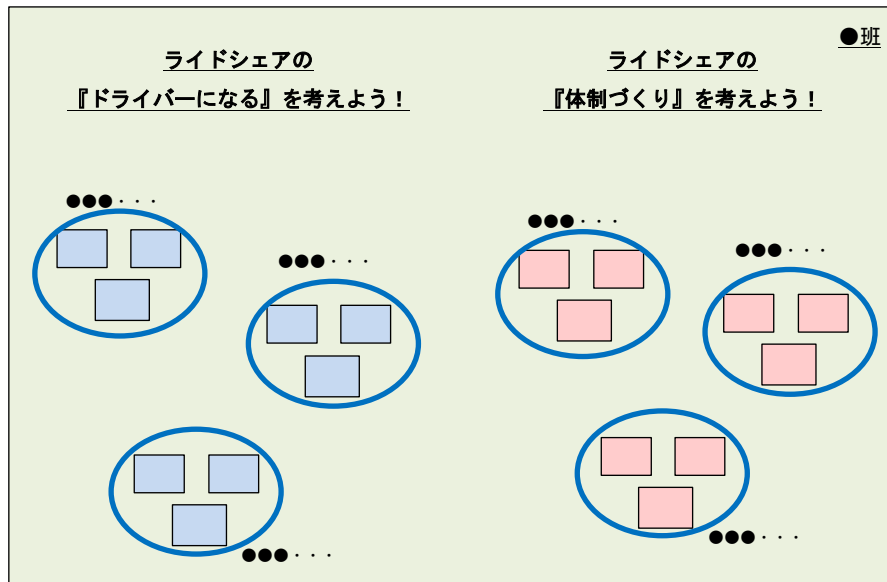
- ・運転が好きか、得意か？
- ・講習を受ける必要があるが不安はあるか？
- ・自家用車の利用に抵抗はないか？
- ・予約時間に個人の自宅に迎えに行くことが必要だが問題ない？
- ・ドライバーをやってみたいと思うか？

※班の中で協力的な方、ドライバーになってくれそうな方がいればメモしておく。

(3) 意見交換3：ライドシェアの『体制づくり』を考えよう！（10分）

公共ライドシェアの導入に必要な新しい組織が担う作業を簡単に説明した上で、運行組織の立ち上げに向けた機運醸成を図った。

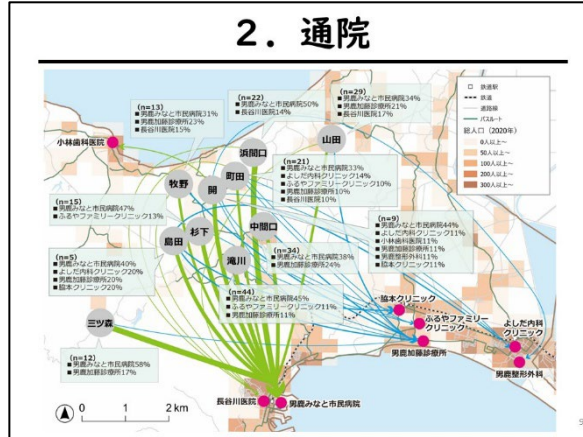
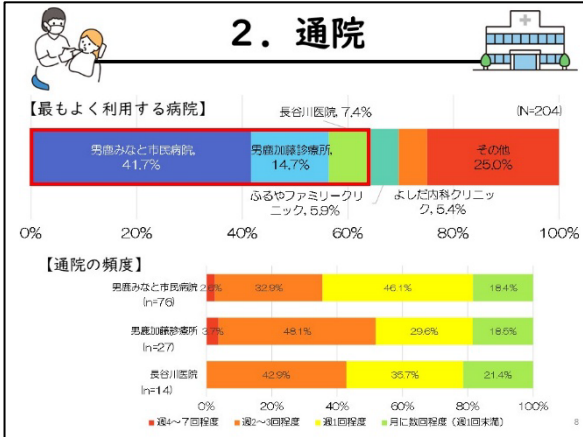
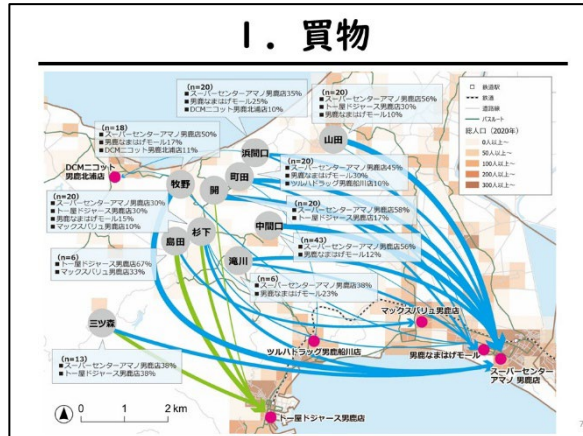
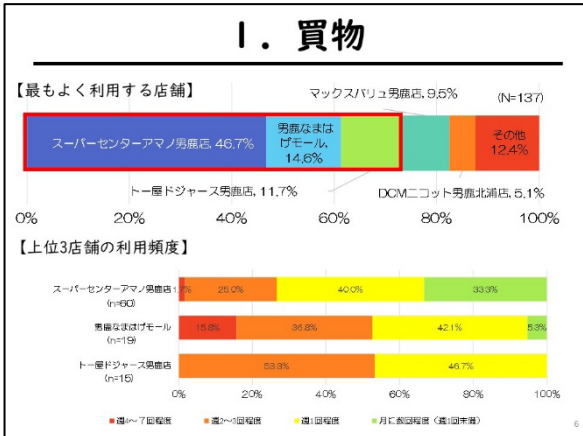
- ・車両の管理、ドライバーの管理、安全管理が必要
- ・利用者・ドライバーに関するお金の管理
- ・予約の受付対応も必要
- ・既存の組織が活用できる？キーマンは？？



4.2.3. 資料作成

セミナーにおいて、参加者への説明資料を作成した。資料作成に当たっては、ご高齢の方が参加されることを想定し、可能な限り簡潔に、理解しやすい構成とした。また、フォントのサイズやイラストを多めにするなどの工夫を施した。

<p style="text-align: center;">「公共ライドシェア」ワークショップ</p>  <p style="text-align: right;">R8/1/21 男鹿市</p>	<p style="text-align: center;">今日のお話</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本日のワークショップについて 2. セミナー・アンケートの振り返り 3. 意見交換① 4. 公共ライドシェアの全国の取組事例について 5. 意見交換②・③ 6. まとめ 																		
<p style="text-align: center;">本日のワークショップについて</p> <p>プログラム</p> <table border="1"> <tr><td>10:00</td><td>開会</td></tr> <tr><td>10:05</td><td>事務局説明（セミナー・アンケートの振り返り）</td></tr> <tr><td>10:15</td><td>意見交換1 ライドシェアを『使ってみる』を考えよう</td></tr> <tr><td>10:35</td><td>休憩</td></tr> <tr><td>10:45</td><td>事務局説明（全国の取組事例の紹介）</td></tr> <tr><td>10:55</td><td>意見交換2 ライドシェアの『ドライバーになる』を考えよう</td></tr> <tr><td>11:05</td><td>意見交換3 ライドシェアの『体制づくり』を考えよう</td></tr> <tr><td>11:15</td><td>まとめ</td></tr> <tr><td>11:30</td><td>閉会</td></tr> </table>	10:00	開会	10:05	事務局説明（セミナー・アンケートの振り返り）	10:15	意見交換1 ライドシェアを『使ってみる』を考えよう	10:35	休憩	10:45	事務局説明（全国の取組事例の紹介）	10:55	意見交換2 ライドシェアの『ドライバーになる』を考えよう	11:05	意見交換3 ライドシェアの『体制づくり』を考えよう	11:15	まとめ	11:30	閉会	<p style="text-align: center;">本日のワークショップについて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">セミナー（11/26実施済）</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ ライドシェアの理解促進 ➢ 地域の皆さんの移動実態の把握 ➢ 地域の課題の共有 </div> <div style="text-align: center; color: blue; font-weight: bold;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">ワークショップでの意見交換（本日1/21）</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ ライドシェア導入に向けた具体的な意見の収集 ➢ 導入に向けた運営組織の検討 </div> <div style="text-align: center; color: blue; font-weight: bold;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #4CAF50; color: white;"> <p style="text-align: center;">【目標】公共ライドシェア等の新たな交通手段の導入によって、より良い男鹿中地区を目指す</p> </div>
10:00	開会																		
10:05	事務局説明（セミナー・アンケートの振り返り）																		
10:15	意見交換1 ライドシェアを『使ってみる』を考えよう																		
10:35	休憩																		
10:45	事務局説明（全国の取組事例の紹介）																		
10:55	意見交換2 ライドシェアの『ドライバーになる』を考えよう																		
11:05	意見交換3 ライドシェアの『体制づくり』を考えよう																		
11:15	まとめ																		
11:30	閉会																		
<p style="text-align: center;">セミナーの振り返り</p> <p>セミナーの概要</p> <p>開催日時： 11/26(水)10:00～11:30</p> <p>開催場所： 男鹿中コミュニティセンター</p> <p>参加人数：合計32名 (うち秋田大学2名、男鹿中コミュニティセンタースタッフ3名)</p> <p>主な内容： ●アンケート結果の報告 ●公共ライドシェアの説明</p> 	<p style="text-align: center;">アンケート結果の振り返り</p> <p>アンケートの概要</p> <p>【目的】 男鹿中地区の皆さんがどのような交通手段を使っているか、移動の困りごとをお持ちか知るためにアンケート調査を行いました。</p> <p>【調査期間】 令和7年10月中旬配布、令和7年10月下旬回収 【対象者数】 男鹿中地区全世帯（計561世帯）（令和7年10月31日時点） ※1世帯につき1枚配布。</p> <p>【回答者数】 288人 【回答率】 51.3%</p>																		



相乗りでお出かけする仕組み (これを『公共ライドシェア』と言います)

- ✓ 地域の方が「自家用車」でご近所の移動を助けあう仕組みです。
- ✓ 移動したい人とドライバーがいることで成り立ちます。

行きたい方向が同じであれば、自分のお出かけのついでに移動したい人を乗せることもできます。

ドライバー
(地域の運転に自信のある方)

移動したい人
(運転に不安あり)

どんなサービス？

- ① 前日まで…予約 (電話かスマホ)

男鹿みなと市民病院まで行きたいので、11/27の10時に私の自宅まで迎えに来て下さい。

分かりました！
- ② 当日…ドライバーがご自宅までお迎え

お迎えに来ました！

利用者の予約に応じてルートや時刻を設定します

どんなサービス？

- ③ 目的地へ

利用者はガソリン代などのお金を払って乗り降ります
- ④ 帰りも予約できます

帰りも家まで送ります

意見交換①

ライドシェアを『使ってみる』を考えよう！

- ライドシェアが男鹿中地区で運行されることを想像してみましょう。
- ⇒ 事前予約は電話がいいですか？ スマートフォンのアプリは使いにくいでしょうか？
- ⇒ 複数の人と相乗りすることに抵抗はないですか？
- ⇒ 待合環境ができるとしたら、どこにあると良いでしょうか。

意見交換① 14

重要ルール① 他人の意見を否定しない

重要ルール② 発言は短く（1～2分/回くらい）

重要ルール③ 男鹿中のより良い未来を想像する

休憩

10:35～10:45

公共ライドシェアの取組について 16

セミナーでの主な意見・質問


参加者からの主な意見・質問	事務局回答
検討しているライドシェアは市内のみが対象か。	男鹿市内に限定する予定である。男鹿中地区の住民の日常生活を支えるものとして検討しているためあくまで市内のみの想定である。
報酬が多いとドライバーは増えると思う。	報酬をあげるるとなると利用料金も必然的に上がるためバランスをみつつ落としどころを検討したい。外出頻度が下がると健康面にも影響がでるため、相乗りで地域を元気にする仕組みを一緒に考えていきたい。
継続できなければ意味がない無償ではなくドライバーに報酬があった方がよい。	ドライバーの報酬や利用料金については今後詳細を検討していく。
このシステムには非常に期待している。実現までどれくらい時間がかかるのか。	R8年度以降に実証運行ができるよう進めていきたいと考えている。

公共ライドシェアの料金体系を中心に質問が多かったため、全国の事例を紹介します

公共ライドシェアの取組について 17

事例1：ノッカルあさひまち（富山県朝日町）

- 1回あたり料金 ⇒ 600円/人
- ドライバーの報酬 ⇒ 200円/運行の商品券を支給
- 車両 ⇒ マイカー
- ガソリン代等の実費・保険 ⇒ 町から支払われる。




https://www.urb.mtk.ac.jp/hotpage/content/000350731.pdf
一部資料 No.11 公共ライドシェア「乗り合い」の導入事例から学ぶ

公共ライドシェアの取組について 18

事例2：あしがりりゅうちゃん（和歌山県田辺市龍神村）

- 1回あたり料金 ⇒ 2kmまで：500円
2km以上：1kmにつき+100円
- ドライバーの報酬 ⇒ 1ヵ月分の運行料金の8割（およそ5,000～10,000円）
- 車両 ⇒ マイカー
- ガソリン代等の実費 ⇒ ドライバーの報酬に含む。
- 保険 ⇒ NPO法人がまとめて加入。半年に1度実施する車両点検費用分を支払い。



意見交換② 19

ライドシェアの『ドライバーになる』を考えよう！

- 公共ライドシェアは、地域の皆さんがドライバーになって運行します。自分自身がドライバーになった時のことを想像してみましょう。
- ⇒ 運転は好きですか？ 自信はありますか？
- ⇒ 安全な運行のためには講習を受ける必要があります。
- ⇒ 個人の自家用車を使ってもらいますが問題ないですか？
- ⇒ 予約が入ったら、**利用者の家の前まで迎えに行く**ことになります。

意見交換③ 20

ライドシェアの『体制づくり』を考えよう！

- 公共ライドシェアの導入には、全体を管理する『体制（いわゆる運行組織）』が必要です。
- ⇒ 運行組織では**車両やドライバーの管理、お金の管理、予約の対応**等を担うことになります。
- ⇒ 男鹿中地区で**新しい組織を立ち上げる**ために、協力していただけますか？

まとめ 21

他のグループの意見を聞いてみましょう

- より良い男鹿中を目指すために、他に考えるべきことはあるでしょうか。
- まわりの方の意見も聞きながら考えてみましょう。

今後の予定

22

R7年度

- アンケート調査やセミナー、本日のワークショップでの
ご意見をもとに、交通施策に関する『ビジョン』を
作成

R8年度（予定）

- 運行組織の立ち上げ

R9年度以降（予定）

- 公共ライドシェアの実証運行の実施

4.2.4. 会場レイアウト案

男鹿中コミュニティセンターの会議室での実施を想定し、以下のレイアウトとした。

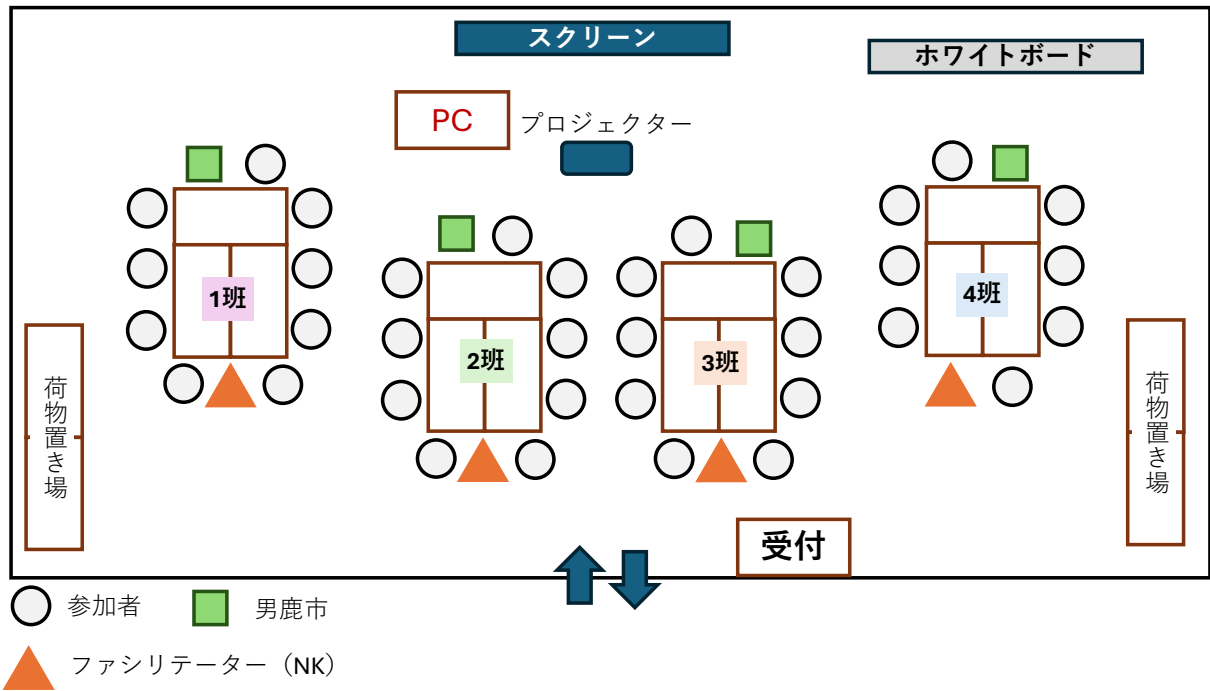


図 4-2 会場レイアウト案

4.2.5. タイムスケジュール

当日のタイムスケジュールを以下に示す。

表 4-2 会場準備

時刻	所要時間	内容	備考
9:00	20	会場設営	※準備物
9:20	10	スタッフ打合せ	企画資料
9:30	30	開場・受付開始	受付名簿

表 4-3WS (1.5 時間想定)

時刻	所要時間	プログラム	内容	備考
10:00	5	開会	・ 男鹿市挨拶 ・ 趣旨説明	挨拶：高桑課長
10:05	10	事務局説明	・ 資料説明 ・ 本日のワークショップについて ・ セミナー・アンケートの振り返り ・ グループワークの進め方説明	説明：NK (P1~P14)
10:15	20	グループワーク①	★自己紹介 ★意見交換 1 ライドシェアを『使ってみる』を考えよう	
10:35	10	休憩		
10:45	10	事務局からの情報提供	・ 資料説明（全国の事例）	説明：NK (P16~20)
10:55	10	グループワーク②	★意見交換 2 ライドシェアの『ドライバーになる』を考えよう	
11:05	10	グループワーク③	★意見交換 3 ライドシェアの『体制づくり』を考えよう	
11:15	10	まとめ	各班 2 分程度でファシリテーターが発表 ※時間に余裕があれば班ごとに振り返り	(P21)
11:25	5	閉会	・ 今後のスケジュール ・ 男鹿市挨拶	(P22) 挨拶：高桑課長

4.2.6. 備品

備品リストを以下に示す。

表 4-4 備品リスト

備品名	数量	手配	
プロジェクター	1 台	男鹿市	—
スクリーン	1 台	男鹿市	—
長机	3 台×4 グループ+ α	男鹿市	—
ホワイトボード	1 台	男鹿市	—
付箋	4 色×4 セット	日本工営	手持ち
模造紙 (A1 サイズ)	2 色×4 枚+予備 2 枚	日本工営	手持ち
ペン (プロッキー)	5 セット	日本工営	手持ち
黒サインペン	50 本	日本工営	手持ち
IC レコーダー	4 台	日本工営	手持ち
カメラ	2 台	日本工営	手持ち
WS 説明資料	40 部+ α	日本工営	手持ち
セミナー資料	15 部	日本工営	手持ち
事務局用企画案	10 部	日本工営	手持ち
参加者アンケート	40 枚	日本工営	手持ち
受付名簿	5 枚	日本工営	手持ち
事務局用筆記用具	1 セット	日本工営	手持ち
三角立札 (班名入り)	4 個	日本工営	手持ち
名札シール	40 枚	日本工営	手持ち
アルコール除菌シート	2 パック	日本工営	手持ち
ごみ袋	2 枚	日本工営	手持ち
養生テープ	2 個	日本工営	手持ち
延長コード	2 本	日本工営	手持ち
ゴルフペン (アンケート用)	30 本	日本工営	手持ち
マグネット	10 本	日本工営	手持ち

4.3. 開催結果

4.3.1. 結果概要

セミナー当日は計 30 名（うち秋田大学 2 名、男鹿中コミュニティセンタースタッフ 1 名）が参加された。



開会挨拶（男鹿市高桑課長）



全体説明



意見交換（1班）



意見交換（2班）



意見交換（3班）



意見交換（4班）



各班の発表（3班）



各班の発表（4班）

図 4-3 ワークショップの様子

4.3.2. 参加者からのご意見

(1) ライドシェアを『使ってみる』を考えよう！に関する意見

1) 利用ニーズ

利用ニーズは、主に買物・通院である。一人で外出する際には船川地区の商業施設を利用し、誰かに送迎していただける際には船越地区の商業施設でまとめ買いするなど、交通手段によって外出先を変えている方もみられた。

2) 利用時間帯

午前中に利用したいという意見が多数見受けられた。一方、「予約状況によって帰りの時間が読めない」「病院の帰りに買物をすることがある」など、帰りの時間帯にばらつきがあることが想定される。さらに、長谷川医院、男鹿加藤診療所については、送迎バスがあるため、既にそちらを利用されている方がいらっしゃることも明らかとなった。

3) 車両

買物時の荷物量を考慮し、ワゴン車のような積載量の大きい車両が望ましいとの意見が挙げられた。相乗については概ね「やむを得ない」「抵抗がない」と理解をいただく意見が多かった。

4) 予約方法

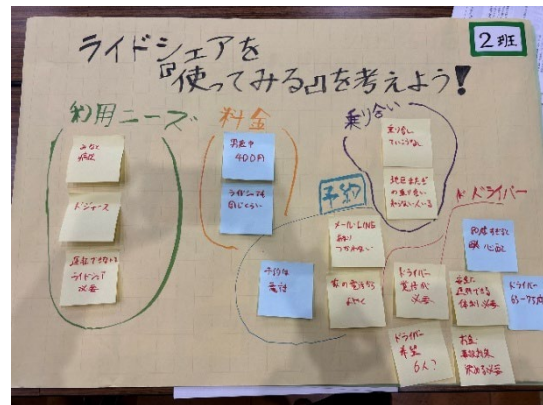
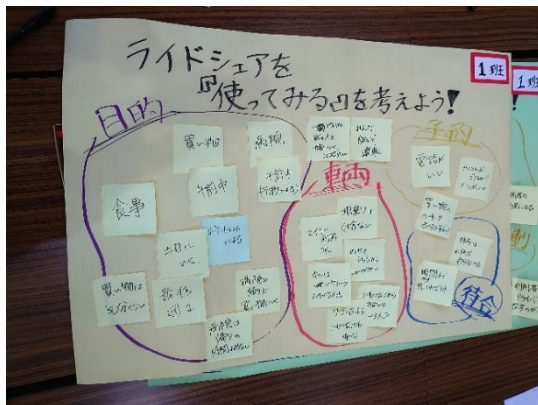
電話が良いという意見がどの班からも挙がっており、メールや LINE 等は利用しにくいことが示された。

表 4-5 ライドシェアを『使ってみる』を考えよう！に関する意見

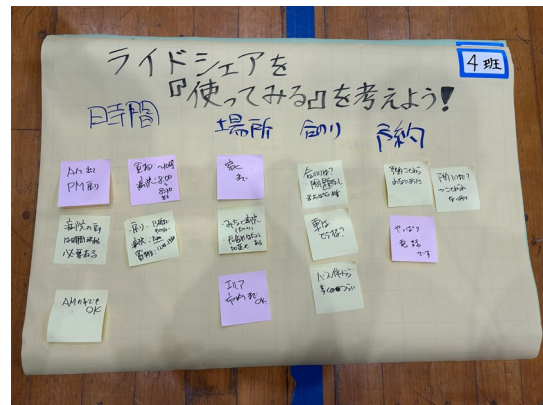
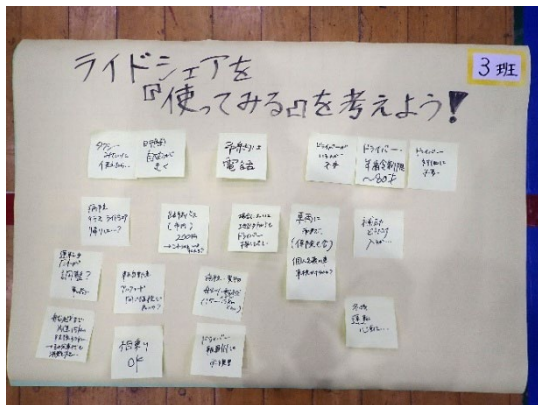
班	分類	内容
1 班	目的	● 買物が目的である。
		● 午前中に行くことが多い。
		● ポイントが加算される日に行くことが多い。
		● 土日に買物に行くことが多い。
		● 最低でも週 1 は外出する。
		● 通院が目的である。
		● 病院の予約によるが午前中に行くことが多い。
		● 通院の帰りに買物に行くことがある。
		● 病院の帰りの時間が読めない。
		● 食事が目的の外出もある。
	—	● 近所の人と一緒に外出することはまずない。
	—	● 自分自身で運転している。
	—	● 買物にかかる時間は 30 分程度である。
	車両	● マイカーを利用しても良い。
		● 相乗は仕方ない。
		● 乗せてもらうのでしょくないと思う。
● 中には相乗が嫌という人もいるかもしれない。		
● ワゴン車であれば荷物が多くなった場合でも安心である。		
● 荷物も含めると、最大乗車人数は 3 人か。		
予約	● 電話予約が良い。	
	● 確認ができるのでメールが良い。	
待合	● 買物のルートを決める必要がある。	
	● 待合場所は作らなくても良い。時間までは建物内で待つこととする。	
—	● 利用者よりドライバーを探すことを優先すべきである。	
2 班	利用ニーズ	● 男鹿みなど市民病院に行く。
		● ドジャースに行く。
		● 運転ができない、できなくなった時にライドシェアが必要になる。
	料金	● 男鹿中地区内の移動であれば 400 円程度が妥当ではないか。
	乗合	● 乗合することには抵抗はない。
● 地区またぎの乗合の場合、面識がない人もいるだろう。		

班	分類	内容	
	予約	● メールや LINE はあまり使用しない。	
		● 家の電話から予約をしたい。	
		● 予約は電話を希望する。	
	ドライバー	● 80歳を過ぎると心配である。	
		● 安全に運転できる体制作りが必要である。	
		● ドライバーは65～75歳の方を希望する。	
		● お金・事故対策を決める必要がある。	
		● ドライバーをやるならば覚悟が必要である。	
		● アンケートの結果より、ドライバーを希望している人は6人もいるのか。	
	3班	—	● タクシーのように使えることが理想である。
		—	● 時間の融通が利くと良い。
		—	● 予約は電話を希望する。
—		● ドライバーがいるのか不安である。	
—		● ドライバーは例えば80歳までなど、年齢制限を設けるべきである。	
—		● ドライバーへの対価は必要である。	
—		● 病院の帰りの時間が読めない。	
—		● ドライバーの調整を行う事務局が必要である。	
—		● 船越まで片道15km、往復30kmかかるため、その分車代も消費が大きい。	
—		● 路線バスは現在200円のため、これ以上の料金であると高いと感じる。	
—		● 車種が異なる場合でも同額で良いのか。	
—		● 相乗は問題ない。	
—		● 通院や買物は船川、船越が主で、男鹿中地区からは約15～17km程離れている。	
—		● ドライバーの報酬は必須である。	
—		● 地区内でドライバーが見つからない場合は、地区外からもドライバー探してくるべきである。	
		● 車両、保険も含め市で提供すべきである。	
		● 個人名義の自家用車に公共ライドシェアのための保険は掛けられるのか。	
		● 補助がどれだけ入るか。	
	● 冬の運転が心配である。		

班	分類	内容
4班	時間	● 午前に出発し、午後に帰宅することが多い。
		● 買物は10時までに済ませることが多い。
		● 通院の場合は、8:00~8:30に自宅を出発する。
		● 病院の帰りの時間を決めておく必要がある。
		● 自宅へは13時までには帰りたい。
	場所	● 午前中のみでの運行でも良い。
		● 家まで来てもらえるとありがたい。
		● 長谷川医院、男鹿加藤診療所は送迎がある。
	相乗	● 運行範囲は男鹿市内までとさせていただきたい。
		● 相乗は問題ないが、酔っ払いとは相乗をしたくない。
		● 車両はどのように手配をするのか。
	予約	● バス停から歩くのが辛い。
● 予約が断られないようにしていただきたい。		
● いつまでに予約をするべきか。		
		● 電話予約を希望する。



1班の意見 2班の意見



3班の意見 4班の意見

図 4-4 各班の意見 (模造紙)

(2) ライドシェアの『ドライバーになる』を考えよう！に関する意見

1) ドライバー希望意向

多くの住民は日常的に自家用車を運転しているものの、「人を乗せる自信がない」「冬季は特に危険である」など、安全面に対する不安が強く示されている。担い手は60～70代が想定されるが、高齢化が進む当地区においてドライバー確保が難しいことが明らかとなった。

2) 車両

マイカーを使用する場合のガソリン代や消耗品、車両点検費用等の実費補填を心配されている方が見られた。市が提供する車両を使用するか、マイカーを使用するか、詰めていく必要がある。

3) ドライバーへの報酬

ドライバーはボランティアで行うことは難しいという意見が多数挙がり、一定の報酬の必要性が指摘された。

4) 料金体系

議論の中では、冬の運転に不安を感じる方がいることから、季節ごとに運行単価を変更する案（例：冬期 600 円、夏期 400 円）や、例えばコミュニティセンターのような住民が集合しやすい場所まで自力で来られた方には料金を割引するなど案も挙げられた。

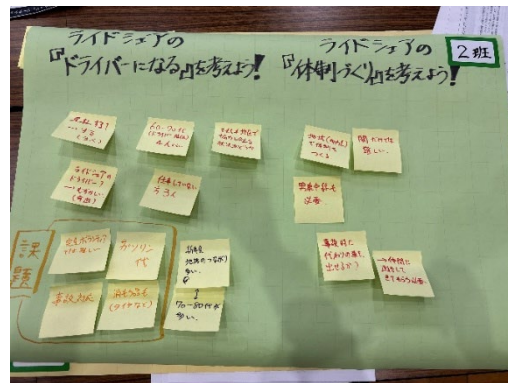
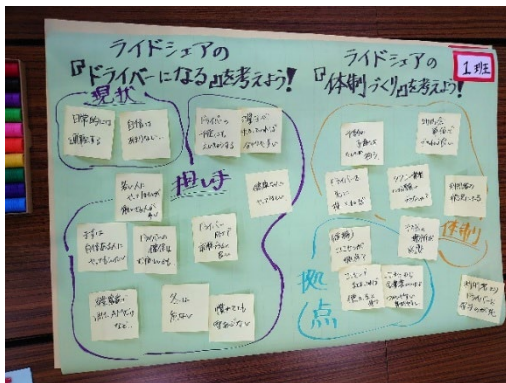
5) 運行形態

「買物・通院のついでであれば対応可能」という意見が多い一方、病院送迎は「待ち時間が長く調整が困難」「ドライバーが拘束される」など負担が大きい点が課題である。加えて、「複数人のドライバーで調整できる体制」「曜日ごとの担当制」など、個人の負担を軽減する仕組みづくりの必要性も指摘されている。

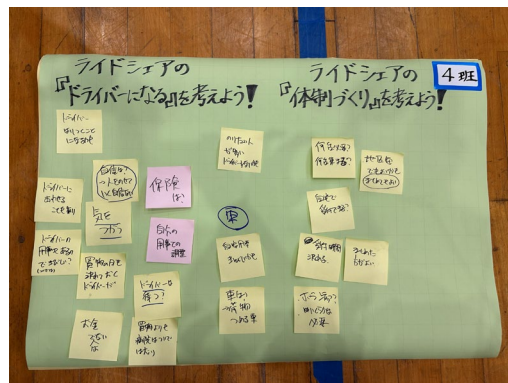
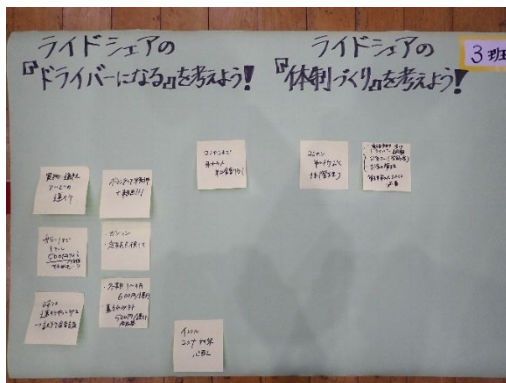
表 4-6 ライドシェアの『ドライバーになる』を考えよう！に関する意見

班	分類	内容
1 班	現状	● 日常的に運転をしている
		● 自信はあまりない。
	担い手	● 若い人にドライバーをお願いしたいが、働いている人も多く難しいだろう。
		● 自信ある人をお願いしたい。
		● ドライバーの確保は難しいかもしれない。
		● 専業農家のため、週 1 の午前中だけなど、時間を決めてであれば可能。
		● ドライバー同士で調整できると良い。
		● 健康な人をお願いしたい。
		● ドライバーの予定にも影響する。
		● 曜日が決まっていれば分かりやすい。
		● 冬の運転は危険である。
● 慣れていても雪の日の運転は危ない。		
2 班	課題	● 完全ボランティアでは難しい。
		● 事故対応はどうするのか。
		● ガソリン代は出してもらえるのか。
		● タイヤなどの消耗品代も出してほしい。
	—	● 新年会など、地域のつながりが強い。
	—	● 住民は 70～80 代が多い。
	—	● 班の中で 3 人が運転すると回答。
	—	● ドライバーは年齢的に難しい。
—	● ドライバー候補は 60～70 代で 4 人ぐらいいる。うち 3 人は退職している。	
—	● そもそも地区で協力し合える状況か。	
3 班	—	● 買物・通院ついでの運行が良い。
	—	● 例えば船川までの運行で 1 往復 500 円であれば、ドライバーを希望する人がいるかもしれない。
	—	● まずは試しに運行してみて、試行錯誤で調整していくのが良いのではないか。
	—	● ボランティア精神だけではなく、報酬も必要である。
	—	● ガソリン代や定期点検代も支払われるべきである。
	—	● 冬期は 600 円/運行、それ以外の時期は 400 円/運行又は商品券 1 枚など、差をつけるのはどうか。
	—	● インフルエンザ・コロナ対策は必要である。

班	分類	内容
	—	● コミュニティセンターまで来られる人は料金の割引をしてほしい。
4 班	—	● ドライバーが待機しなければならない。
	—	● ドライバーの予定に合わせるのはどうか。
	—	● ドライバーも予定があるため、ついでの運行は厳しいのではないかと。
	—	● 人を乗せる自信がない。
	—	● ドライバーが気を遣う。
	—	● 買物の日を決めておくのはどうか。
	—	● ドライバーは儲けることが目的ではない。
	—	● 保険はどのように対応するのか。
	—	● 自分の用事での調整が必要である。
	—	● ドライバーは待つことになるのか。
	—	● 買物よりも病院の「ついで」は難しいと思われる。
車		● 自家用車を使用することは厳しいかもしれない。
		● 荷物を載せられるくらい大きな車が良い。



1 班の意見 2 班の意見



3 班の意見 4 班の意見

図 4-5 各班の意見（模造紙）

(3) ライドシェアの『体制づくり』を考えよう！に関する意見

1) 運営組織について

運営組織の拠点としてコミュニティセンターが有力な候補として挙げられた。

運営組織には、「管理担当者」を置く必要があり、電話受付、運行調整、登録情報の管理、金銭管理等の業務を担う人材が不可欠である。

2) 体制構築の単位

「町内会単位での運営」が望ましいとの意見がある一方、担い手不足が想定されることから「複数地区をまとめて体制を整えるべき」との指摘もみられる。また、事故発生時に代替車両を確保できるか、保険をどのように扱うか、受付時間をどう設定するかなど、運営をする上でのルール整備が多数課題として挙げられた。

表 4-7 ライドシェアの『体制づくり』を考えよう！に関する意見

班	分類	内容
1 班	体制	● 予約の手配を組織が担うべきである。
		● ドライバーを先に探さなければならない。
		● タクシー事業者に委託できないか。
		● 町内会単位でできれば良い。
		● 利用者の状況による。
		● 中枢の場所が必要である。
		● コミュニティセンターが拠点になるか。
		● コミュニティセンターで合流すれば使いやすいと思う。
	● コミュニティセンターから各集落に向かうと使いやすい、集まりやすいのではないか。	
—	● 利用者よりドライバーを探すことが優先である。	
2 班	—	● 町内会単位で体制を作るのが良いのではないか。
	—	● 開だけでは難しい。
	—	● 男鹿中線も必要である。
	—	● 事故時に代替りの車を出せるのか。
3 班	—	● コミュニティセンターに事務所を設置するのはどうか。
	—	● 事務局の役割としては、電話予約・受付、ドライバー調整、登録者とのやり取り、お金の管理が挙げられる。管理する人は最低でも 1 人は必要である。
4 班	—	● 車両は何台必要で、何台確保することができるか。
	—	● 自宅で受付はできるか。
	—	● 受付時間を決める必要がある。
	—	● 運営はボランティアか、支払いは必要である。
	—	● 地区毎にまとめて良い。まとめたほうが良い。

(2) ドライバーをやってみたいか

- 「ドライバーをやってみたいか」について「はい」と回答した人は0人である。一方で「いいえ」と回答した人は27人で、これは全体の9割以上に該当する。

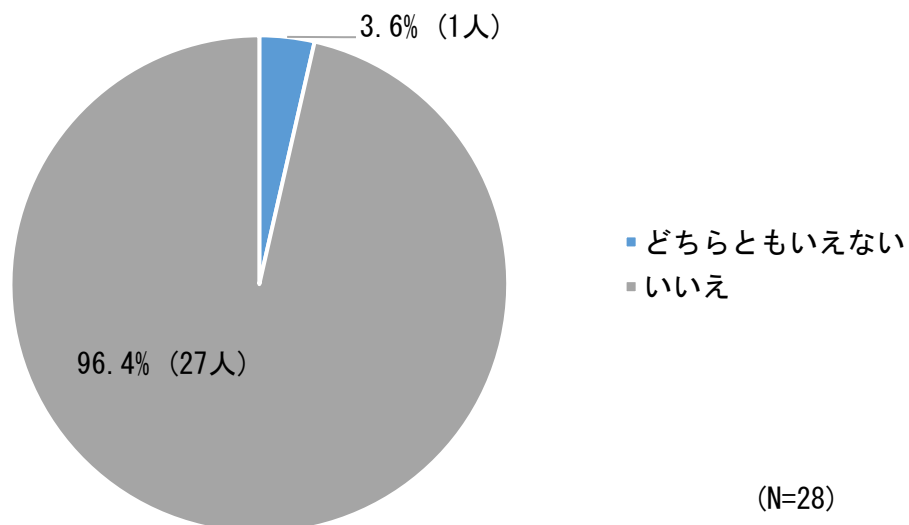


図 4-8 ドライバーをやってみたいか

(3) 運行組織の立ち上げに協力するか

- 運行組織の立ち上げに協力すると回答した人は15人で、これは全体の約5割に該当する。

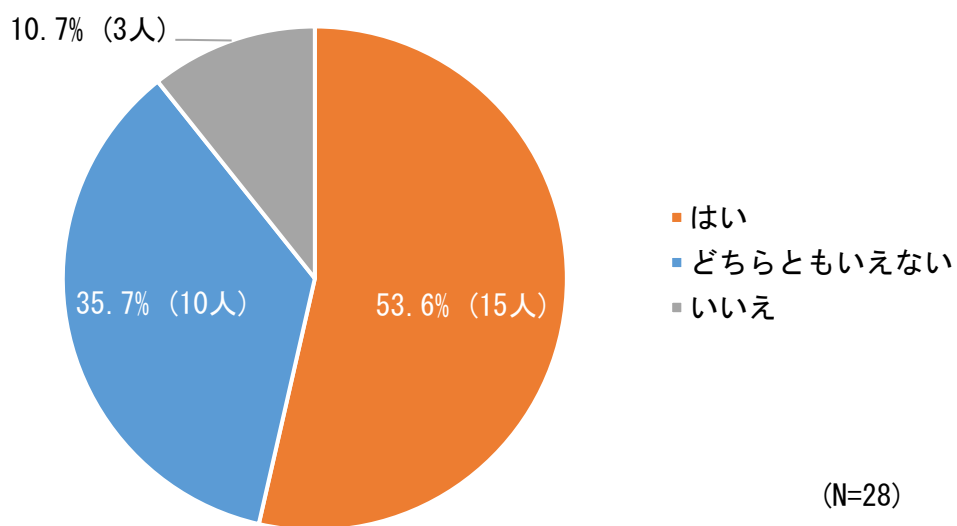


図 4-9 運行組織の立ち上げに協力するか

(4) 自由記述

(a) 懸念事項

- ・ 組織でのお金の管理、電話対応等が大変ではないか。
- ・ 地区ごとにドライバーが必要であると思うが、ドライバー確保は大変ではないか。

(b) ライドシェアへの期待

- ・ 将来、ライドシェアは必須になると思う。
- ・ 早めにライドシェアを実現して欲しい。
- ・ 盛り上がりを期待したい。